

児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2021年 2月 6日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」北長野校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	1	パーティションの位置を変えながら活動に応じて柔軟にスペースを確保している。	保護者の方の待機、面談用スペースが不足している。近日中に改善予定。
	②	職員の配置数は適切である	1	3		職員が休んだ場合など、利用者の方にご迷惑をおかけしているのは心苦しい。4名の職員が各自の専門分野を生かし、今後も連携して支援を行っていく。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	1	毎回の支援の流れの見通しを持ちやすくするために、一部の活動をパターン化したり、日々の活動をホワイトボードに示したりしている。	左記の方法では見通しの持ちにくいお子さんに対して方法を工夫することで45分間もっと安定した気持ちで過ごせるよう考えていく。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	3	1	支援スペースは簡素で余計な刺激が入らないよう、遮光や掲示物に注意している。コロナ禍への対策として、机や椅子、取っ手などのこまめな消毒、上窓の常時開放や換気なども行う。	教室内にいると室内の温度が適正かどうかかわからないことがあるので注意していく。今後も換気と消毒を徹底し、感染対策を行う。特に冬期間や雨天時には玄関のマット周辺が汚れやすいので、こまめに掃除を行う。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4	0	定期的な職員の打ち合わせ会に加え、一人がつかんだ情報はすぐに他の職員に伝えることで情報の共有をはかっている。	意見をいただくことはありがたいという立場で、この保護者アンケートや日々の振り返りの中でいただく意見を真摯に受け止め、今後の業務改善を図っていく。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	1	振り返りの時間だけでなく、支援中にも直接お話を伺うよう心掛けている。しかし、まだ充分ではない。	楽しく活動することを通して力を伸ばすのが本来の児発の姿。きらりは勉強するところ、というイメージは崩していきたい。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	0	昨年度の自己評価と改善内容は、2020.1.18作成版として教室ホームページで公表済み。頂いた意見の内容は全員で共有し、支援に取り入れるよう努めてきた。	貴重な意見をいただいたことへの感謝と、結果を公表していることにつき、LINE等を通じて保護者の皆様全員にお伝えする。個々の意見への回答は、教室に掲示する予定。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	0	発達支援研究所による指導は受けている。長野市に	近いうちに長野市による監査が入るだろう。書類の適切・公正

					よる監査の実施時期は現段階で未定。	な管理と整備を日頃から行っていく。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	0	発達支援研究所主催の研修に加え、長野市等が主催の研修（本年度は主にweb）に参加している。	今後も研修の機会をとりえ、積極的に参加するとともに、その成果を職員や保護者の方と共有していきたい。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4	0	これまでアセスメントが不十分だったとの反省に基づき、すべてのお子さんに対して、発達支援研究所作成のシートを使って職員で再評価を行った。	アセスメントは常に見直し、データを更新していくことが必要。来年度は新しい形式のシートを使い、保護者の方のご意見も伺いながらアセスメントを行い、支援計画に生かしていく予定。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	0	発達支援研究所が作成したアセスメントツールを活用した。	新しいツールが公表されたことを受け、新年度には新たなツールで再評価を行う。保護者の方にもご意見をいただく。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	0	保護者の方のご要望やお子さんの困り感を中心にして支援内容を設定してきており、左記のうちの「地域支援」で示された内容についてはそれほど意識したものにはなっていなかった。	このガイドラインを再度読み返し、内容を再確認するとともに、ガイドラインに基づき、場合によってはこちらから支援目標につき積極的に考えをお伝えすることも必要ではないか。今度の検討課題とする。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4	0	計画作成時には指導員の意見を反映させており、支援内容を考える際に時には常に見ることができるよう、支援ファイルに挟んである。	支援計画がその時の保護者の願いやお子さんの困り感と合わなくなっている場合もある。6か月を待たずに見直しを行うことも進めていきたい。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	0	支援中や家庭、園でのお子さんの様子について、日常的に情報交換をしながらプログラムを組んでいる。	それぞれのお子さんの課題は何か、どこを伸ばすのか、これからも情報交換をしながらプログラムを組んでいきたい。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	4	教材を自作したりいろいろなところから資料を集めたりして共有することで、固定化を防ごうと努めている。	プログラムが固定化しないよう、それぞれの指導員がアイデアを出し合い、より良い支援を今後も目指していきたい。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	3	1	月曜開所日に組む活動の内容については、お子さんの状況に応じ、保護者の方とも相談しながら決めている。ただ、支援計画にまでは反映させていない。	集団の苦手なお子さんや、他の子に遠慮してしまっ自分を出せないお子さんなど、そのお子さんのその時の状況につき、保護者の方とも相談しながら、無理のない計画を立てていきたい。

関係機関や保護者との連携	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	0	毎朝の打ち合わせ時に役割分担を確認している。支援内容の決定時には前回の支援者との打ち合わせを行っている。	前回の支援状況に基づいて次の支援の計画を立てるため、職員間の打ち合わせは必須。不明な点についてその都度確認しており、今後も続けていく。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	1	次回の支援に生かせるよう丁寧に記録に残すとともに、口頭でも連絡を取り合っている。	18時枠が埋まっていると、終了後の打ち合わせができないこともある。その場合は翌朝確認している。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	0	その日の支援内容とお子さんの様子、保護者の方からのご指摘を支援のたびごとに毎回記録している	支援記録を振り返って読むことでそのお子さんの成長や残された課題を把握し、支援に生かしている。今後も継続する。
	⑳	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4	0	6ヵ月に1回以上見直しの機会をとり、保護者の方に意見をいただいている。	お子さんの状況は日々変化しており、定期的な見直しに加え、より頻繁な見直しも考えたい。
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	1	支援時間と会議が重なることが多いため、ほとんどの場合、児発管が出席している。きらりで開催する会には指導員も参加している。	指導員が出席した方がよい場合でも、時間の調整がつかないことがほとんどで、指導員の出席はかなり難しいのが現状だ。今後の検討課題とする。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	1	園や病院、来入児を対象とした機関との連携を行っている。	まだまだ連携は充分ではない。保護者と連絡を取り、より積極的に情報交換を行っていく。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	—	—	(該当しない)	
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	—	—	(該当しない)	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	0	支援会議にはできるだけ出席して、お互いの支援内容の情報交換や相互理解に努めている。	保護者からも支援会議への出席要請をいただいております。園訪問を楽しみにしているお子さんもおられる。今後も継続する。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	0	ことばの教室やお子さんの入学予定の小学校、特別支援学校と様々な機会に連絡を取り、保護者と情報共有を行っている。	より多くの方が必要な情報を得ることができるよう、今後も保護者の方のお考えを伺い、必要な情報を得られる場所と繋いでいきたい。

	⑳	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	0	様々な専門的な訓練を受けた方とのつながりができており、助言を得たり連携したりしながら支援を進めることができるようになった。	専門的な機関と連携し、保護者とも相談しながら支援を進めることで、より大きな効果が得られるよう、これからも連絡を取って合っていく。
	㉑	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	2	職員には交流や活動の機会があっても、教室の子どもたちには機会はなかった。	こういった交流や活動の必要性に関する検討も含め、保護者とも相談しながら考えていきたい。
	㉒	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	2	今年度はこのような会がほとんど中止になった。Webでの会議には参加した。	今後再開された場合には、積極的に参加し、その成果を共有していきたいと考えている。
	㉓	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	保護者との話し合いを行ってはいるが、話し合いをした保護者の人数はまだまだ少ないのではないかな。	共通理解を持つために、日常の支援の中で、指導員だけでなく、児発管ももっと保護者と話をしていかなければならない。
	㉔	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	1	指導員はいろいろな支援をこなしている。保護者向けの様々な本を置いて読んでいただいている。	保護者交流会のような機会だけでなく、日常的に取り組んでいかなければならない。今後更に充実させていきたい。
保護者への説明責任等	㉕	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	0	契約時や領収書類を初めて渡すときに、できるだけ丁寧に説明するよう心がけている。	利用者負担につき、領収書類の見方がわかりにくいと、説明用の資料を作成した。今後もわかりやすい説明に努めていく。
	㉖	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4	0	保護者やお子さんの困り感の軽減解消に主眼をおいた支援計画を作成しており、ガイドラインは参考にする程度だった。	左記の立場は、保護者の要望には添うが、保護者が今後の支援方針の見通しを持ちにくいという欠点もある。両者のバランスの取り方は今後の検討課題。
	㉗	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3	1	定期的に意見を伺ってはいるが、適切に応じているかどうかは甚だ心許ない。	悩みに適切に応じるためには、絶えず研鑽を積む必要がある。今後も努力していく。
	㉘	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催したりして、保護者同士の連携を支援している	4	0	本年度は3回実施。多くの方に参加していただいたことと、とても参考になった旨のお話をたくさん伺ったことをうれしく思っている。	大人数での会に加えて、情報が必要な方とその情報をお持ちの方を、児発管を介してつないでいくことで、保護者同士の連携を支援することも強化していく。
	㉙	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	多くの保護者の方とLINEでつながったため、相談をいただいた場合に迅速な対応ができるようになってきた。	気楽に相談の申し入れをしていただける雰囲気になっているかどうか問題。こちらから胸襟を開いて語ることを大切にする。
	㉚	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	0	会報は発行していない。週1回程度、LINEの一齐	事務的な内容だけでなく、保護者の方のお困りに少しでもお役

				送信を実施中。多くの方に読んでいただいている。	に立ちそうな内容をお伝えできるよう心がけていく。
③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	4	0	注意はしているが、これで充分ということはないだろう。	職員間で注意し合って対応するなど、充分留意して管理する。
③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0	振り返りの時間や支援中に意思疎通のための時間をしっかりとるよう心がけている	これで充分、ということはありません。常に自分たちの姿勢を見直していきたい。
④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	2	行事への招待は行っていません。何かあったときには地域の方とすぐに連絡を取れるだけのつながりは持っている。	教室は地域と無関係に存在するものではない。地域の方に愛され、認められる施設になるよう、今後も力を尽くしていく。
④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	0	各種マニュアルは完備している。しかし、すべてのマニュアルを保護者に周知しているわけではない。防災訓練は毎月行っている。	避難経路をよりわかりやすく掲示する、コロナ禍関連の情報を保護者が見る掲示板に貼るなど、重要度の高い情報は目立つ場所に掲示し、更新していく。
④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	0	毎月実施している防災訓練の中で、災害発生時の対応も取り上げている。	保護者の方には、契約時だけでなく、重要事項は適宜お伝えしていく。
④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4	0	てんかん発作などにつき、発作発生時の対応について保護者と確認している。	発作については契約時に確認し、全職員で対応方法を確認している。今後も継続する。
④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	—	—	飲食の提供をしていないため、医師の指示書は所持していない。	
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	0	ヒヤリハット事例の発生時には職員で情報共有するとともに報告書を作成し、保護者や会社に報告している。	他教室の事例も参考に、どのような事例が発生しうのかを事前に知っておくことで、適切な対応が取れるようにしていく。
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0	本年度は研修会が中止となり、資料配布となったため、全員に回覧し、意思統一をはかった。	虐待はあってはならないし、何が虐待に当たるかを常に見返していく必要がある。今後も研修には積極的に参加していく。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	0	これまで身体拘束が必要な場合につき保護者と具体的に話し合う機会がなかった。今年度は同意書を用意し、必要な場合には事前に同意をいただくよう改めた。	身体拘束に当たるかどうかの判断基準について職員で話し合った。身体拘束をしなくても済むよう対応するのが望ましいが、どうしても必要な場合には適切に対応できるようにする。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：2021年 2月 6日

事業所名：こどもサポート教室「きらり」北長野校

保護者等数（児童数）：8人 回収数：6人 割合：75%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	5	1	0	0		限られたスペースをうまく使えるよう今後も工夫する。
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	5	1	0	0	出来ていないことやダメだったことに目が向けられ、悲しい思いをしたことがある。	今後も職員が各自の専門性を生かし、連携して支援に当たっていきたい。できることを増やし、伸ばしていくことで自己肯定感を高めることが重要。日々の支援内容が適切か、しっかりとチェックしていく。
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	6	0	0	0		支援スペースを落ち着いた環境にし、その日の支援内容を可視化してお子さんが見通しを持ちやすくなるよう、今後も心掛ける。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	5	1	0	0	真夏でも室内が暑く感じ、心配になったことがあった。	気温や湿度など、お子さんや保護者の方にとって快適なのか、常に気をつけていかなければならない。温度計の設置も検討する。
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	5	1	0	0	計画作成に当たり丁寧に親身になって話を聞き、理解を示してもらえたのがありがたかった。	お子さんや保護者の方の意見やニーズをしっかりとらえているか、意見をいただく時間は充分かを常に検討していく。
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	5	0	1	0		これまでの計画は、左記の3つの視点を満遍なく捉えたものではない。特に地域支援の観点について十分な検討を行っていなかったことは反省点。今後改めていく。
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	5	0	0	1	各支援でどの特性に対してどんな目	その活動のねらいをお伝えすることで、家や園でも取

						的、期待を持って行ったプログラムだったか明示してほしい。	り組んでいただいたり、園や家庭で行われた活動をきりでも取り組んだりしていきたい。	
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	5	0	0	1	幅広いプログラムを行う指導員と固定化している指導員がいる。	どの職員の場合でも多様で楽しい活動を行うことができるよう、毎日の打ち合わせの際に職員同士で連絡を取り合っていく。
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	3	1	1	1		職員と保育所等とは、支援会議の時などに連絡取り合っているが、障害のないお子さんとの交流は行っていない。必要性の有無も含め、今後検討する。
保護者への説明等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	6	0	0	0		契約時には丁寧にお伝えするよう心掛けているが、特に利用者負担金については内容がわかりにくいので、定期的に詳細を伝える必要がある。今後改善していく。
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	5	0	1	0		ガイドラインの中のねらいや支援内容についての説明はほとんどしてこなかった。今後検討する。
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	3	1	1	1	質問に対して答える指導員と傾聴する指導員がいる。	振り返りの時間には、その日の活動に関する話し合いが主となり、障害の特性等についてより深い話ができないこともあった。支援時間中に児発管がもっと対応するなど、方法を工夫しなければならない。
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	4	2	0	0	そのプログラムの目的や、どんな特性へのアプローチだったのかを教えてほしい。	その日の様子をお伝えすることに加え、その活動を取り入れた理由や効用についても説明をおこなうようにする。
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	3	2	1	0	その日の様子については伺っているが、育児に関する助言等はない。声掛けや関わり方についても教えてほしい。	保護者の方の日頃の困り感などを伺う機会をもっと多く作らなければならない。そのためには、指導員だけでなく、児発管ももっと聞き役になり、声掛けや

							関わり方についてお伝えしていく必要がある。
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	3	2	0	1	保護者交流会は3回実施。もっと開いてほしいとの希望もいただいた。来年度の検討事項。会の開催に加え、職員を介して保護者の方同士をつないでの情報交換も積極的に行っていきたい。
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	5	0	0	1	いつでも相談できる雰囲気ができているかを絶えず見返していく。内容によっては対応できない場合もあり、その際は他機関と連携するなど、丁寧でしっかりとした対応をとっていく。
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	6	0	0	0	この点については、これで良しということはない。今後も改善に努める。
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	5	1	0	0	ブログの更新のない月があったり、更新されても保護者の方に伝えなかつたりしたことがあった。改善する。
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	4	1	0	1	現時点で困っていることはない。 個人情報取扱いに関してはこれで充分ということはない。日々の業務中での扱いに不適切な点はないか絶えず検討していく。
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	5	0	0	1	避難経路がわかりにくい場所に貼っていたことを、保護者の方のご指摘を受けて改善。他のマニュアルも見やすいよう改善する。
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	2	1	0	3	職員は防災訓練を行っていても、お子さんを交えての訓練を本年度は実施しなかった。来年度の検討課題とする。
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	6	0	0	0	仕事をした日は嬉しそうに作品を見せている。遊びを通しての学びも楽しそう。 やらされる活動やつまらない活動では、お子さんの力はあまり伸びない。今後も楽しく取り組むことのできる教材を開発していく。

⑳	事業所の支援に満足しているか	5	1	0	0	勉強、学習感が強く感じる日には集中力が続かないときもある。就学前から勉強に苦手意識を持ってしまうことは避けたい。	すべての方に「はい」と言っただけなのが私たちの目標。まだ改善しなければならぬ課題があるのご指摘を真摯に受け止め、改善すべき点は何かを探し、改めていきたい。
---	----------------	---	---	---	---	--	---

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。